令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　香月　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

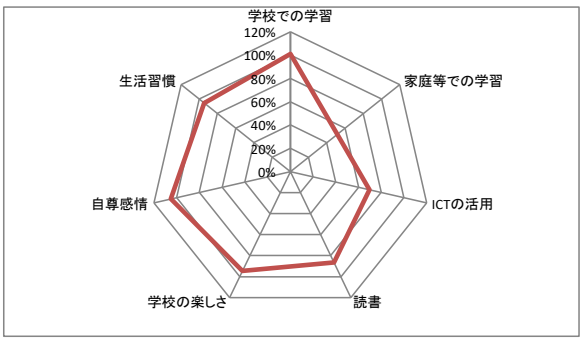
⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均より、約13％下回っており、特に顕著にちがうのは、正答数11問以上の層が少ないことと、正答数4～6問の半数に満たない層が多いことである。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	全国平均にもっとも近かったのは「書くこと」に関する問題	
	努力が必要な問題	自分で記述することを要する短答式・記述式の問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は全国平均より、約8％下回っており、正答数11問以上の層は全国平均と大きな差はないが、正答数半数未満の層が多いことである。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	領域別では「数と計算」領域の問題、観点別では「知識・技能」の問題	
	努力が必要な問題	「図形に関する問題」「変化と関係」「データの活用」に関する問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	正答率では全国平均より、約9％下回っており、正答数では中間層が多く、11問以上の層と6問以下の層が多いことである。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	領域別では「エネルギー」分野の問題	
	努力が必要な問題	自分で記述することを要する短答式・記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・朝食を食べてない児童の割合、ゲームや動画の長時間利用児童の割合、スマートフォンなどの機器の約束を守れない児童の割合が高い。 ・「自分にはよいところがある」「将来夢や目標がある」「人を進んで助ける・人の役に立ちたい」などの項目で肯定的回答をした児童の割合が高い。 ・家庭学習への取り組み姿勢（計画性・学習時間）については、全国へ金に比べて否定的回答をした児童の割合が高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

記述式の問題に対する苦手意識があるのは明らかなので、自分の考えを書かせる授業取組が必要。また、回答数が少ないのは、問題の意図が読み取れてないことも原因と思われ、国語の力の差がいちばん顕著であることからも、読み取りの力の育成が必要。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭での学習時間が少ない児童の割合が高いので、自主学習や読書の啓発・奨励や家庭への呼びかけが必要。